



情報誌

FAR

47 号

事務局：公益社団法人 日本放射線技術学会事務局内

〒600-8107 京都市下京区五条通新町東入東鋸屋町 167 ビューフォート五条烏丸 3F

TEL:075-354-8989. FAX:075-352-2556/http://www.jsrt.or.jp. Email:office@jsrt.or.jp

《ごあいさつ》

15 周年を迎える FAR 会のこの頃

副会長 平林久枝



新年、おめでとうございます。

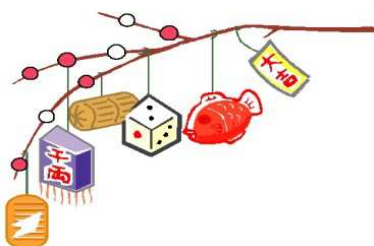
去年は猛暑の夏から秋を飛び越して冬の寒さを迎える異常気象に加えて地震、豪雨等の災害の多い年でしたが、FAR 会員の皆様、如何お過ごしでしょうか。

恒例の秋の旅は少人数ながら世界遺産の日光東照宮等を巡る楽しい旅でした。東照宮は修復中で残念ながら「眠り猫」を見ることが出来ませんでした。最近、公開された眠り猫は目をほんの少し開けているそうです。熟睡できない世相を表しているのでしょうか。徳川家康の墓が何故日光にあるのか調べてみると、家康の遺言により最初に埋葬された久能山東照宮から富士山頂上を通り、北へ伸ばした線と江戸城から北極星を眺めた線の交点が日光である。富士山は「不死の山」で、北極星は宇宙の中心にあり、北極星に向かう道は神仏のみが通れる道であり、家康は「東照大権現」としてまつられ、家康の魂は江戸を鎮護するとのこと。家康の一周忌に遺体を運んだとは信じられない絢爛豪華な日光東照宮ですが...

少子高齢化の昨今であり、15 周年を迎える FAR 会員も例外ではなく、会員約 100 名で 65 歳以下は 2 割程度です。秋の旅における酒の消費量に如実に表れているようです。今後の旅のあり方について、参加人数が少なく年配者が多いことを考慮して、見直しが必要な時期かもしれません。私も健康維持のため平日にスポーツジムに行くこの頃ですが、シルバー組で賑わっています。

FAR 会立ち上げに貢献した大先輩を見送って、寂しいことですが伝統を引き継ぎ、新たな役員の活動が年々充実していること嬉しく思います。FAR 会誌も会の情報、会員の原稿で充実したカラフルな紙面で楽しませてくれます。会の実務をされる皆様に感謝します。

第 73 回日本放射線技術学会総会学術大会は、宮地利明大会長の基に「To the Summit of Radiology ,To the Horizon of Radiology 」のテーマで平成 29 年 4 月 13 日～16 日にパシフィコ横浜で開催されます。発表方式も国際化に対応した成果を期待しています。横浜馬車道十番館における懇親の夕べを楽しみにしています。毎年、個人では味わえない思考を凝らした「おもてなし」に感謝しています。



内 容

1. ごあいさつ 副会長 平林久枝
2. 第 73 回総会学術大会へのお誘い 大会長 宮地利明
3. 2017 FAR 会 懇親の夕べ 代表幹事 平野浩志
4. 2016 日光を巡る旅報告 代表幹事 石井 勉
5. 会員動向
6. 会からのお知らせ
7. JSRT 情報
8. 第 48 号の特集原稿募集
9. 連載《ご当地自慢》  
明智光秀ゆかりの丹波亀山城の城下町  
「京都府亀岡市」 亀岡市 西谷源展
10. 編集の小窓

## 《第73回総会学術大会へのお誘い》

### ご挨拶

第73回総会学術大会 大会長 宮地利明

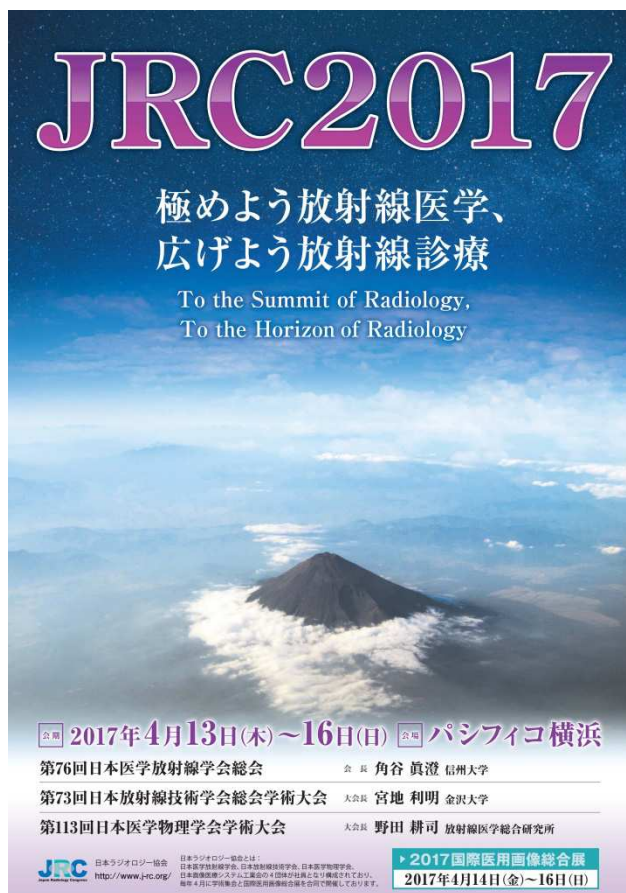


大宮の秋季学術大会に向かう車内でこの原稿を書いておりまして、車窓に昨年のFAR会「能登を巡る旅」の景色が重なり、楽しかった旅行の思い出がよみがえってきます。FAR情報誌がお手元に届くのは、年が明けていよいよ第73回総会学術大会の最終準備に取りかかりはじめた頃だと思います。ご無沙汰しておりますが、皆様お変わりありませんか。私は元気にやっております。

今年も4月13日(木)～16日(日)に横浜市のパシフィコ横浜会議センターを中心に、JRC2017として本学会、日本医学放射線学会、日本医学物理学会、日本画像医療システム工業会で共同開催します。海外の学会要人がJRCの大会をアジアの北米放射線学会RSNAと称していましたが、まさしくそのとおりで、大会の国際化も着実に進んでおり、大会英語ホームページのWelcome Letter [http://www.jsrt.or.jp/gmeeting/soukai73eng/?page\\_id=37](http://www.jsrt.or.jp/gmeeting/soukai73eng/?page_id=37) には、あえて”This meeting is an international meeting and one of the leading events in radiological technology”と記しました。先生方の後進が学会の国際化を進めるために必死で英語発表に取り組んでいる姿をご覧ください。本大会の目玉として女性男性共同参画に関する国際シンポジウム(アジアで活躍する女性研究者のシンポ)を用意しました。また、人工知能・深層学習の研究が医療応用を含めて世界中で話題になっていますが、中でもしばしばニュースで取り上げられるワトソン(IBM製コンピュータシステムでクイズ王に勝利したことで有名)の開発者を米国から招聘してシンポジウムを開きます。この他、JRC合同特別講演では超有名なスポーツ関係者を呼ぶ予定です。

ところで今回の総会学術大会は、西暦2017年、平成29年の第73回大会です。これら2017、29、73の数は素数です。本学会の大会開催年の西暦、和暦、大会回数がみな素数である確率はごくわずかであり、過去に江島大会長の時(西暦2011年、平成23年、第67回)しかありません。素数をご存じのように数学だけでなく情報学や情報工学において極めて重要な数です。また、素数を英語でprime numberと言いますが、このprimeは他に「最重要の、根本的な、最初の」などの意味を持っています。そこでこれらを勘案して本大会を”prime meeting”に位置付けることを目標に準備を進めています。是非この”prime meeting”にお越し下さい。

FAR会の先生方に横浜でお目にかかることを楽しみにしております。



## 《2017年 FAR会懇親の夕べ》

アンティークな雰囲気フランス料理を楽しみましょう

代表世話人 平野浩志

FAR会の諸先輩の皆様、信州の平野です。

お待たせいたしました、2017年4月の第73回JSRT総会学術大会時のFAR会懇親の夕べの企画をご紹介します。前回は横浜を代表する中華料理でしたので、今回は明治時代の雰囲気を感じながらのフランス料理を楽しんでいただきたいと思います。

12月3日(土)下見に横浜を尋ねました。横浜駅からシーバスを使って山下公園に向かいましたが、海から見るみなとみらい地区は、別格なロケーションを味わうことができました。皆様もシーバスを1回お試しください。

さて、目的の馬車道十番館は、昭和42年に明治の建築様式を参考に建てられた西洋館です。

店長お薦めのフルコースを味わっていただきましたが、とても美味しかったです。特にfoie grasは最高でした。当日のコースは若干違いますが、ご満足いただけたと思います。

#### 記

日 時 平成29年4月15日(土) 18時30分より21時00分まで

会 場 馬車道十番館 <http://www.yokohama-jyubankan.co.jp/> TEL 045-651-2621

ナビオス横浜から徒歩15分、

東横線(みなとみらい線)馬車道駅 出口5から5分

市営地下鉄(ブルーライン)関内駅 出口9から3分

JR桜木町駅 南改札から徒歩10分、JR関内駅 東口から徒歩8分

会 費 9,000円(会員)、10,000円(非会員) 予定

参加申込方法 情報誌第47号同封の申込ハガキ:3月15日(水)・必着

参加希望の有・無 大枠の参加者の人数の把握 (宴会場の大きさを決定します)

希望者: [hirano@shinshu-u.ac.jp](mailto:hirano@shinshu-u.ac.jp) (平野宛て; 2月3日まで)

世話役 平野浩志 携帯 090-9666-2592

萩原 明 携帯 090-2634-6231



## 《2016 秋のFAR会報告》

### 日光を巡る旅報告

代表幹事 石井 勉

今年の秋の親睦旅行は参加者14名と予定していた人数を下回りました。残念でしたがそれを吹き飛ばしてくれるような快晴に恵まれました。出発予定時刻前には飲み物、つまみ等の積み込みも完了し用意万端整えて出発いたしました。今年もお見送りありがとうございます。ソニックシティを出てから岩槻インターまで結構混んでいて1時間くらい要しました。東北道に入ってから車の流れも良く順調にクルージングを楽しみました。日光宇都宮道路から日本三大名瀑の一つ華厳の滝へ向かいました。落差は97メートルの勇壮な滝です。エレベーターで降りたところ



華厳の滝にて



ろに観瀑台がありました。水の多さや落差の迫力は満点でしばし見とれていました。勇壮な景色を見た後は駐車場から見る紅葉となった男体山が浮かび上がっていました。

この後まっすぐホテル春茂登へ向かいました。パンフレットによると明治・大正時代より割烹店として日光の味覚を提供してきたそうです。ゆっくりした後はお楽しみの宴会の時間です。川上先生のご挨拶、速水先生の御発声で乾杯し楽しいひとときが始まりました。お刺身、天ぷら、お肉、焼き魚、日光湯波等に飲み放題付きの豪勢な膳でした。大広間にはカラオケのセットが置いてありご自由にお使い下さいとのこ

とで、食事、歓談後は歌わせていただきました。皆様の若い歌声がおそくまで春茂登の館に響いていました。終了後幹事の部屋で二次会のためお集まりいただき楽しいひとときを過ごさせていただきました。翌朝も絶好の旅行日和となりました。8時50分にホテル前に集まり、ホテルの看板の前で記念撮影をしました。バスに乗りホテル春茂登を後にして日光市内観光に出かけました。目的地

は日光東照宮及び二荒山神社です。バスが入れるところまで上ってくれました。予約していた拝観券を受け取り、それぞれに渡していききました。そして各自拝観しに行きました。ところが集合時間と集合場所をお知らせするのを失念していたのです。途中で気が付き東照宮の中を探し回りました。11時に二荒山神社で待っていて下さいとやっと伝えることが出来ました。日光東照宮の見所は五重塔、唐門、三猿、鳴竜、眠り猫、徳川家康の霊廟などです。豪華で有名な陽明門は修復中で全容は見られませんでした。五重塔は塔

の中心に心柱が吊り下げられており、10センチほど浮かせた地震に強い伝統工法が用いられています。唐



二次会風景



本家やまびこで

ホテル春茂登玄関前



門は東照宮で最も重要な本社の正門であります。三猿は猿から学ぶ人生の教訓を表しており8面16匹で描かれています。鳴竜は巨大な墨絵で見上げると躍動感があり迫力は満点です。眠り猫は有名な左甚五郎による彫刻です。この彫刻の裏側には雀の彫刻があり猫の居眠りで雀が安心な程の平和を表していると言われています。年配者には手摺の無い急な階段を上り下りした後日光の字を当てはめたとされる二荒山へ移動しました。ここは1200年前に開山されたパワースポットです。この時期に茅の輪くぐりならぬ笹の葉くぐりがあり左右に回りくぐってパワーをいただきました。この日は東照宮の参道で流鏝馬がありまし

たが昼食の関係で見物は出来ませんでした。昼食は東照宮に近い本家やまびこで湯波蕎麦、山菜御飯、たまり漬、湯波佃煮のお膳です。満喫した後帰りの混雑を見込んで少し早めに大宮へ戻ることにしました。途中の休息に寄った羽生PAは江戸時代の町並みを模して造られ鬼平犯科帳を題材にしたPAです。予定到着時間を5分ほど過ぎて無事に大宮駅に到着しました。江戸時代を満喫した旅でした。参加した皆様のご協力に感謝申し上げます。飲物やおつまみを差し入れていただいた日本放射線技術学会事務局、第44回日本放射線技術学会秋季学術大会実行委員会、川越の地酒や焼酎を差し入れていただいた森 克彦先生に心から感謝申し上げます。

幹事：森 克彦、橋本廣信

## 《会員動向》

- ・会員数（平成 28 年 12 月 1 日現在）：95 名

## 《会からのお知らせ》

- ・平成 28 年度第 2 回世話人会議報告

平成 28 年 10 月 15 日 大宮ソニックシティビル棟会議室にて開催した。

川上会長を含め世話人 15 名が出席し、以下の議題について討議・審議した。

### 1. 会務報告

#### ① 会員動向

会員数：95 名（平成 28 年 10 月 14 日現在）

- ・新入会員（4 月～9 月）：1 名 松原 馨（東京都狛江市、2016/4/19 日付け入会）
- ・自己退会者：1 名 金尾啓右（2016/5/14 付けで退会）
- ・死亡退会者：3 名 橋本 宏（2016/5/14、死亡）石原 浩（2016/8/16、死亡）  
四宮恵次（2016/10/5、死亡）

#### ② 事務局報告（業務報告及び、4 月から 9 月の収支計算書報告）

#### ③ 第 1 回運営委員会と総務委員会との合同委員会報告

議題 1. 平成 29 年度からの世話人の人選について

2. 情報誌「第 50 号記念誌」発行について

3. 次年度事業計画案・収支予算案の検討

4. 懇親活動

① 2017 秋季懇親旅行企画案の検討

② 2016 日光を巡る旅の参加者数の確認および、参加者増への対策

5. 委員会報告 1) 編集委員会、2) 総務委員会

6. その他 名誉会員推戴の件等

### 2. 平成 29 年度からの世話人の選任

審議の結果、下記の 25 名を平成 29 年度からの世話人に選任した。

石井 勉、今井方丈、上田克彦、江島光弘、神澤良明、川上壽昭、草山泰子

富吉 司、萩原康司、速水昭雄、平野浩志、平林久枝、藤田 透、堀田勝平

前田幸一、宮高 睦、森 克彦、梁川 功、山 哲男（以上、再任 19 名）

江口陽一、小水 満、佐藤幸光、橋本廣信、藤田卓造、本間龍夫（以上、新任 6 名）

### 3. 情報誌「第 50 号記念誌」発行について

平成 30 年 1 月 15 日発行予定の情報誌は通巻 50 号となり、記念誌として A4 版サイズ約 60 頁の「第 50 号記念誌」を発行する事とした。

### 4. 平成 29 年度事業計画(案)、収支予算(案)について

「情報誌第 50 号記念誌」発行の件を含め、他の事業は例年通りとした事業計画(案)・収支予算(案)として策定する事とし、その策定を正副会長ならびに、正副総務委員長に一任する事とした。

### 5. 情報誌関係

① 情報誌第 45 号を平成 28 年 5 月 15 日、第 46 号を平成 28 年 9 月 15 日付けで夫々発行した。

② 情報誌第 47 号を平成 29 年 1 月 15 日に発行する予定で、特集として「自分へのご褒美」として原稿を募集しているが、メーリングリストにて再度原稿募集を行う。

### 6. 懇親活動

#### ① 「2017 懇親のタベ」企画案の提案

（第 73 回総会学術大会、平成 29 年(2017 年)4 月 13 日(木)～16 日(日)

パシフィコ横浜、大会長：宮地利明)

・代 表 幹 事：平野浩志

・開 催 日：平成 29 年(2017 年)4 月 15 日(土) 18:30～

・場 所：馬車道十番館（横浜市中区常盤町 5-67 [Tel:045-651-3134](tel:045-651-3134)）

・参 加 費：9,000 円(会員並びに会員家族)、10,000 円(非会員)

・申 込 み 方 法：情報誌第 47 号同封の葉書を用いて行う。

・申込み締め切り：平成 29 年 3 月 15 日(水)・(必着)

上記の通り提案し、提案通り実施する事とした。

②「2017 懇親旅行」企画案の提案

(第 45 回秋季学術大会 平成 29 年(2017 年)10 月 19 日(木)～21 日(土)、  
広島国際会議場、大会長：上田克彦)

- ・代表幹事：川上壽昭
- ・名 称：「2017 広島・宮島を巡る旅」
- ・日 時：平成 29 年(2017 年)10 月 21 日(土)～22 日(日) 1 泊 2 日
- ・日 程：1 日目(10/21)：広島国際会議場バークルーズ(世界遺産航路)にて→宮島  
宮島散策→ホテルにて懇親会  
2 日目(10/22)：宮島→宮島口→広島城→平和記念公園・原爆ドーム、昼食  
→ 縮景園→広島駅解散(15 時予定)
- ・宿 泊 地：ホテルみや離宮(広島県廿日市市宮島町 849)、懇親会会場
- ・会 費：25,000 円(会員、会員家族)、30,000 円(非会員)

上記の通り「2017 広島・宮島を巡る旅」を提案し、提案通り実施する事とした。

③「2018 懇親の夕べ」代表幹事の選任

(第 74 回総会学術大会 平成 30 年(2018 年)4 月 12 日(木)～15 日(日)、  
パシフィコ横浜、大会長：錦 成郎)

- ・代表幹事に江島光弘世話人を選任した。
- ・開催日時：平成 30 年 4 月 14 日(土) 18:30～(予定)

④「2018 懇親旅行」代表幹事の選任

(第 46 回秋季学術大会 平成 30 年 10 月 4 日(木)～6 日(土)、  
仙台国際センター 大会長：千田浩一)

- ・代表幹事に梁川 功世話人を選任した。

⑤「2016 日光を巡る旅」最終確認

- ・平成 28 年 10 月 15 日(土)～16 日(日)の 1 泊 2 日の日程で予定通り行う。
- ・参加者数：14 名

7. その他

① 名誉会員推戴の件

規約第 4 条の定めにより、平成 29 年 1 月 1 日で米寿を迎えられる下記の会員を名誉会員に推戴する。

- ・富樫 健(北海道岩見沢市、1930/10/07 生)

② 名誉会長の推戴の件

川上会長より、山田勝彦前会長を本会の名誉会長に推戴したいとの提案があり現行規約には本会に名誉会長をおく定めがないため、規約第 9 条に然るべき項目を定め、名誉会長をおく事とし、山田勝彦前会長を本会の名誉会長に推戴する事とした。

尚、規約の一部改訂の文言は平成 29 年度第 1 回世話人会議で可決する事とした。

③ 副会長の選任について

会長より、現在副会長は 2 名(速水昭雄・平林久枝)であり従前通り 4 名とし、藤田 透・山 哲男の 2 名を副会長に任命したいとの提案があり、提案通り承認した。

④ 顧問の選任について

会長より、本年度で世話人を退任する前越 久、山田和美の両名を退任後に本会の顧問に推戴したいとの意向が表明され、次年度より両名を顧問とする事を了承した。

⑤ 次年度からの会計監査について

会長より、現会計監査の山田和美世話人が次年度よりの世話人を辞任される事を踏まえ、次年度からの会計監査を前田幸一世話人に充てるとの意向を表明した。

⑥ 橋本元会長御令室からの礼状

橋本 宏元会長の追悼記事が掲載された情報誌第 46 号を橋本元会長の奥様にお送りした事に対しての丁寧な礼状が届いた。

⑦ 会議関係

1) 平成 29 年度第 1 回世話人会議

日時：平成 29 年(2017 年)4 月 15 日(土) 午前 11 時～午後 13 時(予定)

場所：パシフィコ横浜会議センター(予定)

2) 平成 29 年度第 1 回運営委員会

日時：平成 29 年(2017 年)4 月 15 日(土) 世話人会議終了後(予定)

場所：パシフィコ横浜会議センター (予定)

以上

《JSRT 情報》

『第 73 回総会学術大会』大会テーマ：極めよう放射線医学、広げよう放射線診療

To the Summit of Radiology, To the Horizon of Radiology

大会長：宮地利明（金沢大学医薬保健研究域保健学系）

会 期：平成 29 年 4 月 13 日（木）～16 日（日）

会 場：パシフィコ横浜会議センター他

『第 45 回秋季学術大会』大会テーマ：－ 医療安全を科学する －

大会長：上田克彦（山口大学医学部附属病院）

会 期：平成 29 年 10 月 19 日（木）～21 日（土）

会 場：広島国際会議場

《原稿・作品募集》

【情報誌第 4 8 号】（5 月 15 日発行予定）

■□■□■□「私のふらり旅」□■□■□■

今回の特集テーマを「私のふらり旅」とさせていただきました。ぶらり旅ではありません。あくまでもふらり旅です。たいした目的も考えも無く実行に移した経験をお持ちの会員諸先輩も多いと思います。また特にテーマにとらわれる必要ありません。人生は旅にもたとえられてもいます。よってふらり旅を人生の意味に置き換えていただいても構いません。豊かな経験をお持ちになり、それらを披露していただき会員諸氏に良き薫陶を与えていただくよう奮ってのご応募をお願いいたします。

記

原稿内容：副題（自由にお付け下さい）

原稿文字数：800 字～1200 字（400 字原稿用紙 3 枚以内）

写真：ご自身の写真（半身）文字数に含みません。内容に関する写真及び図表は、1 枚につき原稿文字数から 100 文字を減じて下さい。

写真・図表は、デジタルデータが希望ですが、(JPG、PDF、EXL 等) アナログデータも可。

原稿形式：ワード、一太郎、TEX 等（ワープロ、手書きも可）

提出期限：平成 29 年 4 月 15 日必着でお願い致します。

送 付 先：森 克彦 〒350-0064 川越市末広町 1-11-22 宛

E・mail：[mo-katsu@jt4.so-net.ne.jp](mailto:mo-katsu@jt4.so-net.ne.jp) mokamokawh@gmail.com





明智光秀ゆかりの丹波亀山城の城下町  
「京都府亀岡市」

亀岡市 西谷源展



京都府亀岡市は京都市の西に隣接した都市で、京阪神のベッドタウンでもある。京都駅からはJR嵯峨野線(山陰本線)に乗車すると嵯峨嵐山から保津峡の溪谷を過ぎる平野が広がっている。亀岡市の入口であるJR馬堀駅には約25分程度で到着する。3分で次の駅が亀岡駅である。亀岡市の人口は90,694人(平成28年4月1日現在)となっており、京都府下では宇治市に次いで3番目に多い人口である。亀岡市は旧丹波国の最南端に位置し、戦国時代末期には明智光秀の居城であった丹波亀山城の城下町である。

**地理的**には亀岡盆地が形成され、盆地の中央を大堰川・保津川(桂川)が流れている。亀岡盆地は太古には大きな湖であった。大国主命が亀岡と嵐山の間の溪谷を切り開き、水を流して干拓して出来上がったと言われている。気候は内陸性の気候で京都市内より気温も2〜3度低い。また、晩秋から早春にかけて晴天の日には朝から濃霧に包まれる。京都市内から国道9号線にて老ノ坂峠を越えたり、JR嵯峨野線で保津峡駅から最後のトンネルを通過すると濃霧のベールに包まれている。この濃霧は全国的に有名で最も濃い時は正午近くまで晴れることはない。晩秋の晴天の早朝に山頂から望むと一面の雲海に包まれたように見ることができる。しかし、近年は都市化によってこの霧の発生も少なりつつある。(写真1)

**歴史的**には安土桃山時代の1575年(天正3年)明智光秀は織田信長より丹波攻略を命じられ、1576年(天正4年)丹波統治のために丹波亀山城を築いて城下町が形成された。明智光秀没後は豊臣秀吉の甥である豊臣秀俊(小早川秀秋)などが治め、京都の西北の入口として重要な人物が配置されている。亀山藩主は代々老中や寺社奉行、京都所司代、大坂城代等の要職も務めたと言われている。1869年に三重県亀山市と混同するために、亀山から亀岡に改称された。1871年の廃藩置県で京都府所属となった。

**亀岡市ゆかりの人々**としては、石門心学の石田梅岩、画家の円山応挙、日本解剖学の祖である医師の山脇東洋らは亀岡の出身である。石田梅岩の石門心学は1729年(享保14年)に京都車屋町御池の町屋において「講席」を開いたことに始まる。当時の江戸は八代将軍徳川吉宗の時代で貨幣経済の進展する中で商人の富裕化が進み、貧富の差が著しくバブル経済が破たんし、町には武士の浪人があふれていた。富裕な商人に対して「商人道徳」への批判が噴出していた。梅岩は京都の商家に奉公の傍ら「神・儒・仏」の道を独学・開悟した。梅岩は商いの体験から得た信念を広く社会に語りかけた。梅岩の石門心学は正直・儉約・勤勉の実践であった。円山応挙(圓山應舉)は1733年(享保18年)の生まれで江戸中期から後期の画家で、10歳代に京都へ出て狩野探幽の流れを引く石田幽汀の門に入っている。20歳代で京都四条柳馬場の玩具商で「眼鏡絵」を描いていた。「眼鏡絵」は「覗き眼鏡」と言って遠近法で描かれた絵画に凸レンズを備えた箱の中に置き、これを覗くと立体的に見えるものである。1766年(明和3年)から応挙と名乗り、数々の作品を残している。三井記念美術館蔵の雪松図屏風は国宝である。その他、孔雀牡丹図など10点に及ぶ重要文化財の屏風や障壁画を残している。山脇東洋は日本医学の近代化に大きく影響した医師である。東洋は1706年(宝永3年)に医師である清水玄安の次男として生まれた。22歳の時に京都の医師であった山脇家に養子に迎えられた。東洋は人体の内部構造について五臓六腑説に疑いを持っていた。1754年(宝暦4年)に京都六角の





獄で5人の罪人が斬首された。当時は罪人といえども解剖することは許可されなかったが、所司代酒井忠用の許可を得て国内初の人体解剖を行った。これの観察記録を1759年に『臓志』（ぞうし）として刊行した。その後に杉田玄白らによる『解体新書』はドイツ人クルムスの著わしたTafel anatomieの翻訳時に大いに役立ったと言われている。その他に摂津国福原の一ノ谷に向かう途中に通過した源義経や那須与一、安部清明、一遍上人、蓮如、明智光秀、小早川秀秋、門倉了以などゆかりの人も多い。

**明智光秀**は歴史的には織田信長を討った逆臣とされている。しかし、領主としての光秀は領民から最も慕われていた。そのために亀岡では「亀岡光秀まつり」、明智家の家紋(ききょう)にちなんで「ききょうの里」といったイベントが行われている。同じく丹波の福知山市では「福知山御霊大祭」が開催されている。

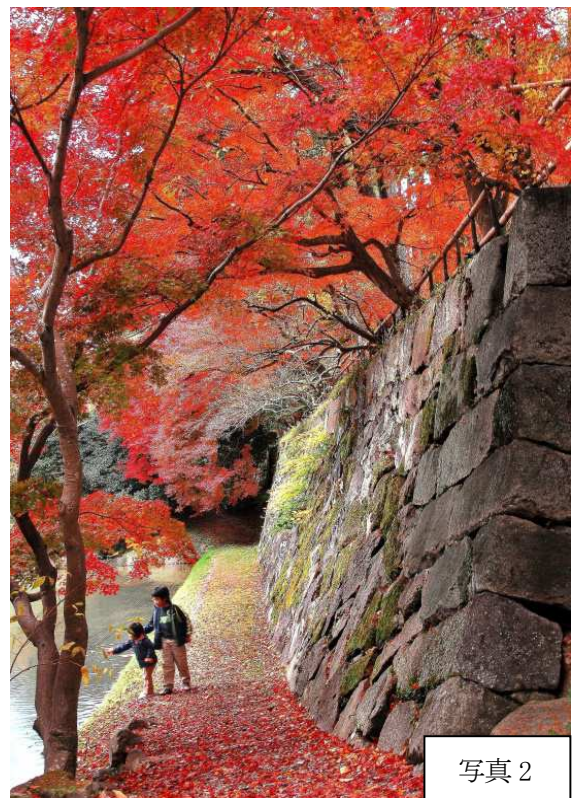
光秀の領主としての手腕は卓越したものがあり、領地の国人衆を家臣として任用している。鎌倉時代から統治は領主→国人衆→領民となっていたが、領地のことを熟知した国人衆を家臣に取り立てて、代官に任用した。光秀は家臣の人材登用についても今までにない手法を取った。出身・家柄に関係なく能力・実力でポストに配置した。また、家臣を大切に合戦で戦死したものは丁重に弔い、負傷したものについても見舞いを欠かさなかった。光秀は「家中軍法」(1条～18条で構成されている)をつくり、1条～7条は軍の秩序や規律を定めている。8条～18条までは家臣の100石単位で禄高に応じて軍役の基準を決めている。「定家中法度」では武具の保管から織田家中の挨拶の仕方まで定めている。城下町の形成方法は、城はそれまで戦鬨を主に置いた「山城」が多かったが光秀は領民の目線で統治するために「平山城」で、戦いの砦ではなく政務の場所と考えていた。光秀は「本能寺の変」の後に洛中や丹波の地に対して税を免除する施策を取った。福知山では由良川と土師川の合流点で度重なる洪水が発生していた。ここを大規模な治水工事を行い、堤防を築き「明智藪」と呼ばれている。戦国武将などは側室を持っていたが、光秀は側室を持たず妻の熙子のみを愛妻家であった。

丹波亀山城主であった**小早川秀秋**は豊臣秀吉の正室である、ねねの兄の5男として生まれ、4歳の時に秀吉・ねね夫妻の養子となり、元服後に木下秀俊となる。さらに羽柴秀俊、豊臣秀俊となり、さらに13歳の時に小早川家の養子となる。朝鮮出兵の時に秀俊から秀秋に改名している。1600年(慶長5年)の関ヶ原の戦いでは、西軍の石田三成を裏切り東軍の徳川家康についている。

**丹波亀山城**は1575年(天正3年)に明智光秀によって築城がはじめられた、1582年(天正10年)の本能寺の変のち光秀没後にも続けられた。その後は豊臣秀俊(小早川秀秋)により修築され、岡部長盛の代の1610年(慶長15年)徳川家康の命じた「天下普請」により築城の名手と言われた藤堂高虎によって5層の天守閣が完成した。

城下町の整備は近隣の商工業者を呼び集め街並みが形成された。丹波亀山城は明治維新以後に廃城処分になり1878年(明治11年)取り壊しとなった。その後は所有者が転々とし城跡も荒れ果てていた。丹波亀山城跡は1919年(大正8年)に新宗教「大本」の出口王仁三郎が購入した。しかし、急成長した大本に対して大日本帝国政府は徹底的に弾圧し、1936年(昭和11年)5月に全施設を破壊・焼却した。その後、教団の土地は亀岡市が購入したが、戦後になって大本に返還され、現在も宗教法人大本本部が亀山城跡に置かれている。(写真2)

城下町を形成していた名残は、亀山城跡の南側約700mの範囲にお寺が多く残っている。曹洞宗のお寺としては昌壽寺(創建1557年)、宗堅寺(創建1489年)、嶺樹院(創建1603年)、円通寺(創建1522年)、浄土宗のお寺としては忠光寺(当地創建1749年)、専念寺(創建1574年)、称名寺(創建1643年)、宗福寺(創建1433





年)、大円寺(創建 1553 年)、壽仙院(創建 1572 年)、浄土真宗として正誓寺(創建 1587 年)、誓願寺(創建 1581 年)、法華宗の本門寺(当地創建 1600 年)日蓮宗の法華寺(創建 1464 年)、臨済宗の聖隣寺(創建 1490 年)の 15 の寺が集まっている。領主であった小早川秀秋の庇護をうけた寺が多くあり、専念寺では二代將軍徳川秀忠、三代家光、四代家綱の位牌を安置し、歴代藩主より手厚い庇護を受けている。

**観光資源**としては湯の花温泉、保津川下り、トロッコ列車などがあげられる。湯の花温泉は亀岡市の中心部より西に約 7km の山間にあり、関西の奥座敷でもある。戦国時代は傷ついた武将がここで傷を癒やしたと言われている。温泉の泉質は単純弱放射能泉(天然ラジウム)で、宿泊施設も 6 施設だけで華やかな温泉街とは違い静かな山峡で四季折々の自然を楽しむことができる。(写真 3)

保津川下りの保津川は源流から亀岡盆地までを大堰川、亀岡から嵐山までを保津川、嵐山渡月橋から下流を桂川と呼んでいる。その後伏見の下鳥羽で鴨川に合流している。公的な水系呼称としては桂川である。保津川は丹波地方の森林資源を運ぶために筏にして流したことに始まる。この森林資源は長岡京(784 年)、平安京(794 年)造営の際に木材を筏にして運んだとも言われている。本格的に物流に使用されるのは 1606 年(慶長 11 年)に京都の豪商であった角倉了以が丹波地方の物産を京都・大阪まで運ぶのに開削・整備した河川である。その後、物流が鉄道や陸路に代わると物流用として使用されなくなった。これを観光資源として急流下りの観光船に利用したものである。保津川下りは亀岡から嵐山までの 16km を約 2 時間かけて下る。春は桜、新緑や岩つつじを秋は紅葉を冬は雪景色の中お座敷船で楽しむことができる。以前は夏の渇水期では運休もあったが近年は上流に日吉ダムが作られ安定した水量で運行が維持されている。(写真 4)

トロッコ列車は JR 嵯峨野線の嵯峨嵐山～馬堀間を複線化するために平成元年に新たな線路の敷設が行われた。同区間の旧線路を利用した路線である。旧線路は保津川に沿って敷設されていたために車窓からの景観がよく、四季折々の景色を楽しみながら私も 15 年間通勤に利用していた。トロッコ列車の観光として 1991 年(平成 2 年)開業した。年間の利用者も 23 万人と見込み、数年でじり貧状態になることが予想された。しかし、景観の良さと京都嵐山観光の一部となり乗客も年間 100 万人を超え、近年の外国人観光客の増加で乗客数はさらに伸びている。(写真 5) 近年では



写真 3



写真 4



写真 5



写真 6



保津川の急流を利用したラフティングが若い人々に利用されている。馬堀駅近くの保津川からゴムボートやカヌーにより、JR 保津峡駅まで下る。保津川下りのコースの半分をボートやカヌーで利用していることになる。(写真6)

**神社の祭り**として、5月3日には「亀岡光秀まつり」が開催される。この日には光秀公の首塚がある谷性寺(こくしょうじ)において追善供養が行われ、祭りでは武者行列が市内でくりひろげられる。(写真7) 谷性寺は初夏には明智家の家紋である桔梗が咲き乱れ、(桔梗寺)とも呼ばれている。10月23～25日は「亀岡まつり」が開催される。鉾山神社の例祭でもあるこの祭りは丹波の祇園祭と称されている。鉾山神社は709年(和銅2年)に創建された古社である。大国主命と応神天皇の二神を祀っている。亀岡盆地がまだ湖であったころ大国主命が鉾を用いて保津峡を開き、亀岡盆地として農地を作ったことを称えてここに祀っている。鉾山神社の境内は500本のもみじが植えられており紅葉の季節は社殿を美しく彩っている。この神社の祭りである亀岡祭りは10月1日の神事始め(鉾山神社参拝)から10月31日の神事済奉告祭まで1か月間の行事である。各町内に11基の山鉾があり、各山鉾町では20日から祭りの行事が始まり、23日から山建てが行われる。23日宵々山、24日宵山、25日本祭がおこなわれる。山鉾を飾る懸装品は西陣織や中国、朝鮮、北欧から染織品が多用されている。(写真8) 篠村八幡宮の祭礼は9月15日ころに行われる。この神社は源頼義が菅田八幡宮(大阪府羽曳野市)からの勧請により1071年(延久3年)に創建されている。この神社は足利尊氏が鎌倉幕府打倒の挙兵をした地として知られている。祭りでは境内に千灯明が点けられ、幻想的な世界を醸し出している。亀岡市は京都に隣接しているために時代劇のロケーションにも使用され、篠村八幡宮でも「座頭市シリーズ」の撮影がたびたびおこなわれた。(写真9) 湯の花温泉に近い稗田野神社では8月14日に「佐伯燈籠まつり」の行事として人形浄瑠璃が演じられている。この行事は国の重要無形民俗文化財に指定されている。



写真7



写真8



写真9

**農業産品**としては、丹波松茸、丹波黒豆、大納言小豆、丹波栗、聖護院かぶら、丹波山の芋などの京野菜の生産地でもある。丹波黒豆は10月に収穫され枝豆として販売され、ビールの肴として重宝されている。この京都府産丹波黒豆は「紫ずきん」と前京都府知事の荒巻禎一氏により命名されている。また、完熟した黒豆は、正月用の高級品として取り扱われている。もう一つの豆である小豆は亀岡の馬路地区で収穫される馬路大納言小豆は小豆の中でも最高級品として取り扱われ、京都の高級和菓子に使用されている。京都の冬の味覚である「千枚漬け」は「聖護院かぶら」と言う直径20cm前後になる蕪(かぶ)で作ってある。「かぶ」



のことを「かぶら」と当地では呼称している。9月初旬に種子をまき、2回の間引きを経て11月中旬から収穫される。拙宅の周りの農地は稲刈りやトマトの収穫が終わると一斉に畑の準備をして種まきが始まる。

1日の種まきのづれは収穫時には1週間の遅れになる。収穫は11月中旬から翌年の2月初旬まで続く。農家の収入源の大半は比較的価格の安定している「かぶ」によってまかなわれているといってもよいだろう。

「千枚漬け」は「聖護院かぶら」を皮むきした後、6mm程度に薄くスライスして3日間塩漬けた後に、昆布などと共に酢漬けにされる。栽培農家でも自家製の「千枚漬け」を作っているが各農家によって味が異なり、好みのものを農家からいただくことも多い。(写真10)山の芋(山芋)の栽培も「かぶ」ほどではないが栽培が行われている。「長いも」と違って粘りが強く、コクがあり重宝されている。比較的価格も高く1kgあたり1,300～1,500円程度で販売されている。年末年始の贈答品やお好み焼き店などにも出荷されている。少し変わった作物としては激辛野菜として有名なハバネロの商業水準での生産地でもある。亀岡市と隣接した京都府向日市は激辛食物で町興しをしておりこれらに出荷されているものと推察している。国内で唯一出荷用として作付しているのは珍しいものでもある。

京都府亀岡市は、京都市から見た場合に大都市である大阪市へはJR線、阪急電鉄、京阪電鉄の鉄道、名神高速道路と交通の便もあり京都～大阪間の都市は大きく発展していた。これに対して丹波地方への交通はJR山陰本線、国道9号線のみであった。

JR線は昭和年代には単線であり、国道も唯一9号線で事故等では孤立することもあった。

そのため開発が遅れていたが、近年はJR線も複線電化され京都間のアクセスも大幅に短縮された。高速道路も京都縦貫道(京都～丹後大宮)が開通し、名神高速とも接続され関西経済圏との距離も大幅に近くなった。京都の観光客の流入もあり、観光による活性化も行われるようになってきている。JR亀岡駅近くにはサッカー場として「京都スタジアム」が建設中である。亀岡市は、今後も発展すると思われるが古からの文化や自然豊かな街並みはいつまでも残しておきたいものだと思っている。

本稿を執筆するにあたり、亀岡市観光協会より一部写真等の提供を受けました。ここに深謝いたします。

~~~~~

### 《編集の小窓》

会員の皆様には、良い新年をお迎えになりましたでしょうか。平成29年新年号(情報誌47号)をお届けいたします。さて、今号は、西谷氏の《ご当地自慢》で亀岡市の魅力について、地理的・歴史背景及び観光資源・農産物等を余す事なく掲載された内容の記事を投稿頂き有難うございました。

今回のご当地自慢の亀岡市の紹介が、筆者にとって大変興味を持って読ませて頂きました。特に、亀岡市の歴史について、事細かく調べた内容で記載されていたので感銘を受けました。また、FAR会の本年度の企画について、第73回総会学術大会時における「2017 FAR会懇親の夕べ」及び第45回秋季学術大会時における「2017 広島・宮島を巡る旅」の世界遺産の旅への多数の参加をお待ちしています。

(橋本廣信 記)



写真 10

### FAR 情報誌 No.47 (非売品)

発行日 平成29年1月15日

発行者 川上壽昭

編集委員会 森 克彦(委員長)

石井 勉 橋本廣信

山田和美

森:連絡先 Tel&Fax. 049-225-2619

Email:mokamokawh@gmail.com